

# 概

# 況

# 概況

## 1. 取扱高

### (1) 年間取扱高

#### 総取扱高

平成9年中（1月5日から12月30日、開市日数 273日）の総取扱数量は、715,250 tで前年比 98.6%と前年を下回り、総取扱金額は、690,675百万円で前年比 99.1%と前年をわずかに下回った。総平均価格は前年に比べ6円高の966円となった。本年は、2件の重油流出事故、6月早々の台風襲来など市場取引に少なからず影響を与えた。

取扱数量と平均価格を種別毎にみると、次のとおり。

#### 鮮魚

するめいか、はまちが減少したものの、かつお、さんま、まいわしの増加などから、取扱数量は 192,221 tで前年比 105.0%、平均価格は 39円安の 986円となった。

#### 活魚

はまち、あなごが減少したものの、かんぱち、またい、ひらめなどが増加し、取扱数量は 14,349 tで前年比 102.5%、平均価格は 1,782円で 18円安となった。

#### 貝類

生鮮・冷凍ともに前年を下回り、取扱数量は 56,077 tで前年比 64.3%、平均価格は 18円高の 908円となった。

生鮮貝類では、あさり、ほたて貝、さざえなどが増加したものの、あか貝、はまぐり、しじみなどが減少した。冷凍貝類では、冷むきあさり、冷つぶ貝が増加し、冷むきかき、冷はたてが減少した。

#### 冷凍魚

まぐろ類が増加したものの、いか類、えび類、さけ・ます類と主要品目が減少し、取扱数量は 176,770 tで前年比 95.0%、平均価格は 53円高の 1,172円となった。

#### 淡水魚

生鮮、冷凍とも前年を下回り、取扱数量は 3,469 tで前年比 82.9%、平均価格は 140円高の 1,427円となった。生鮮淡水魚類では、あゆ、うなぎなど全般的に減少した。冷凍淡水魚類では、冷わかさが増加したものの、冷あゆが激減した。

#### 海藻類

生こんぶがやや減少したものの、生わかめ、もずくが増加し、取扱数量は 7,768 tで前年比 100.1%、平均価格は 10円高の 406円となった。

#### 加工品

塩干品類、焼物製品類、素干品類がやや増加したものの、そのほかは減少し、取扱数量は 264,595 tで前年比 97.0%、平均価格は 1円安の 789円となった。

### (2) 月別取扱高

— 1月 —

#### ★鮮魚

取扱数量	13,204 t (対前年比 99.5%)
平均価格	1,159円 ( " 55円高)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの国内物の入荷量が前年末から引き続き多く、前年に比べて 2.6倍、輸入物は 1.5割減。めじは前年に比べて入荷量が少なく 5.1割減、めばちは国内物が 1.1割増、輸入物も 1.1割の増加となった。まあじは九州山陰東海物が主体であるが漁獲が低調のため入荷量は 0.5割減。九州の巻き網物が主体のさばも 0.7割減となった。まいわしは、高知愛媛鮪子等からの入荷があり 2.2割増。するめいかは日本海側の巻き網が好調

で九州物を主体に 4.5割増。はまちは入荷の最盛期が過ぎ 2.3割減となった。たら類は 0.7割増、あんこうは 3.3割増となった。平均価格では、まぐろ類では、まぐろの国内物が 2.6割安、輸入物が 0.9割高。めじは 3.3割高。めばちは国内物が 2.4割安で、輸入物も 0.1割安のやや安値となった。はまちは品薄から 5.1割高の高値となり、さばは 2.3割高、きんめたいは 2.5割高、まあじは 1.7割高、まいわしは 1.2割高と値を上げた。するめいかは 2.2割安、あんこう 1.5割安、たら類は 0.4割安と値を下げた。

#### ★活魚

取扱数量	1,145 t (対前年比 100.8%)
平均価格	1,754円 ( " 125円高)

取扱数量では、あなごが 0.3割減、またいが 1.6割増、はまちが 2.1割減、かんぱちが 0.2割増となり、全体では 0.1割増加した。平均価格では、またいが 0.1割安、かんぱちが 0.1割高、あなごが 0.7割高、はまちが 6.1割高となり、全体では 0.8割高となった。

#### ★貝類

取扱数量	4,578 t (対前年比 96.6%)
平均価格	944円 ( " 11円安)

取扱数量では、ほたて貝が 2.5割増、むきかきが 0.4割増、あさりが 0.3割増だったものの、かきが 0.7割減、あか貝が 0.3割減少した。平均価格では、あか貝が 0.9割高、あさり 0.1割高、むきかき 0.2割高であったが、ほたて貝が 1.9割安、かきが 0.7割安と値を下げた。

#### ★冷凍魚

取扱数量	12,912 t (対前年比 103.8%)
平均価格	1,146円 ( " 50円高)

取扱数量では、まぐろ類は、びんながが 0.4割増、印度まぐろ 0.3割増加したものの、きわだが 0.2割減、めばちが 0.4割減少し、全体では 0.4割減となった。いか類は、もんこういかが前年に比べて 2.4倍と大きく増加したことから、全体で 3.6割増。かれい類は 4.0割増、さけ・ます類は、しろさけが 1.4割増であったが、べにさけの 2.7割減から、全体で 0.2割増になった。えび類はあかえびが 2.0割減であったが、全体では 0.1割増となった。ぎんたらは 4.7割減、さわらが 3.6割減、たこが 1.0割増となった。平均価格では、まぐろ類は、きわだの 2.1割高などからやや値を上げ、全体で 0.8割高となった。いか類は、全般的に入荷量が増加したことから全体で 0.3割安、さけ・ます類は、べにさけが 4.3割高、しろさけが前年並で全体で 2.5割高となった。えび類は 0.8割高、さばは 4.9割高、たこも 4.7割高となった。

#### ★加工品

取扱数量	19,024 t (対前年比 99.6%)
平均価格	719円 ( " 3円高)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩あきさけが 5.3割増となったものの全般的に入荷量が少なく全体で 0.9割減、塩干品類は、ししゃもが 5.2割増、開干あじが 0.2割増となり全体では 0.4割増となった。煮干製品類は、煮干いわし 2.0割減などから、全体で 0.6割減、練製品類も 0.7割減、湯煮品類も 1.2割減となった。平均価格では、塩蔵品類は、全体で 0.1割安、塩干品類は、開干さばの 3.8割高や、開干さんまの 3.0割高など、全体でも 0.5割高となった。煮干製品類は 0.9割安、練製品類は 0.9割高となった。

— 2月 —

#### ★鮮魚

取扱数量	13,494 t (対前年比 97.3%)
平均価格	1,088円 ( " 22円高)

取扱数量では、まぐろ類では、まぐろの国内物が 6.9割

- 3月 -

増、輸入物も 6.3割増、きわだの国内物が 1.1割増、めばちの輸入物が 0.8割増、めじも 8.0割増となり、きわだの輸入物が 3.3割減、めばちの国内物が 0.9割減となった。まあじは九州・紀州・山陰物を主体に 0.3割増、さばは九州物が主体で漁獲も好調で 3.5割増、まいわしは産地での水揚げも低調で 1.2割減、するめいかは日本海側の漁獲が順調で 4.7割増となった。はまちは、3.5割減。かつおは 2.5割増。たら類は 1.1割減となった。平均価格では、まぐろ類は、きわだの国内物が 1.3割高となったものの、全般的には入荷が好調だったこともあり値を下げた。まあじは 0.4割高、さばは入荷の増加から 1.4割安、まいわしは品薄から 5.3割高となった。するめいかは 2.2割安、はまちは 4.6割高となった。

☆活魚	取扱数量 1,069 t (対前年比 97.2%)
	平均価格 1,793円 ( " 125円高)

取扱数量では、かんぱちが 0.3割増、またいが 0.7割増となり、はまち 3.2割減、あなごが 1.3割減となった。平均価格では、はまちが 5.7割高、あなごが 1.9割高、またいは 0.5割高で、かんぱちが 0.3割安とやや値を下げた。

☆貝類	取扱数量 4,709 t (対前年比 92.3%)
	平均価格 872円 ( " 13円高)

取扱数量では、あさり 0.1割増、ほたて貝 2.1割増、しじみ 0.5割減、はまぐり 2.7割減、むきかき 0.7割減少した。平均価格では、しじみ、ほたて貝が値を下げ、他は若干値を上げた。

☆冷凍魚	取扱数量 13,308 t (対前年比 87.9%)
	平均価格 1,113円 ( " 126円高)

取扱数量では、まぐろ類は、びんながが 6.6割増、印度まぐろが 0.3割増、めばちが 0.1割増となったが、きわだが 4.3割減と大幅に減少したため全体では 0.4割減となった。いか類はもんこういか 2.3倍と増加したが、むきいか 1.1割減、するめいかの国内物が 2.1割減となり、全体では 0.2割の減少となった。さけ・ます類は、しろさけ 1.8割減、べにさけ 3.4割減となったが、ぎんさけが 2.6割増、ますが 2.2倍増となり、全体では 0.4割の増加となった。えび類は輸入物が全般的に減少し、全体で 1.2割減。たこは 4.0割減。かれい類は 0.2割減となった。平均価格では、まぐろ類は冷きわだは入荷減から 3.5割高となり全体でも 0.6割高となった。いか類は 0.1割高。さけ・ます類はべにさけが 6.6割高となったことから、全体でも 3.1割高となった。かれい類は 0.9割高、えび類は 0.2割高となった。

☆加工品	取扱数量 20,049 t (対前年比 93.7%)
	平均価格 726円 ( " 14円高)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩あきさけが 0.9割増、塩しろさけが 3.7割増、すけこが 0.4割増加したが、他は入荷が減少し、全体では 0.9割減となった。塩干品類は開干さば 0.2割増、ししゃもが 4.3割増加したが、他は入荷が減少し全体では 0.1割減となった。煮干製品類は煮干しわし 4.6割減などで全体でも 1.7割減となった。練製品類も 1.3割減となった。平均価格では、塩蔵品類はすじこが 4.1割高、塩あき全般が高値、他は安値となり全体では前年並であった。塩干品類は開干あじ 0.4割高、開干さば 3.1割高、開干さんま 3.1割高となり全体でも 0.4割高となった。煮干製品類は 0.4割安、練製品類は 0.9割高となった。

☆鮮魚	取扱数量 14,451 t (対前年比 103.1%)
	平均価格 1,115円 ( " 1円安)

取扱数量では、まぐろ類は、きわだが 0.5割減となったものの、その他は全般的に増加し、特に前年不調だっためじは 10.4倍となった。まあじは産地での水揚げも増加し、九州物を中心に入荷があり 1.8割の増加となった。さばは下旬に入荷がもちなおしたが、前年並にとどまった。まいわしは全国的に産地水揚げが振るわず 0.6割減となった。前年同期不調だったするめいかはややもちなおし 2.2割増。はまちは 2.7割減。かつおは漁の操業もスタートしたばかりで、九州物が主体で順調な入荷があり、6.2割増となった。平均価格では、まぐろ類は、全般的に入荷増から、めじ 4.6割安、まぐろの国内物 1.9割安など全体的に値を下げた。まあじは 1.6割安、さばは 0.2割安、まいわしは 3.0割高、するめいかは 0.4割高、はまちは 3.2割高、入荷の多かったかつおは 1.9割安となった。

☆活魚	取扱数量 1,242 t (対前年比 106.5%)
	平均価格 1,824円 ( " 36円安)

取扱数量では、あなご 2.0割増、かんぱち 1.7割増、またい 1.4割増など主要品目が増加した。平均価格では、あなご 1.7割安、かんぱち 0.5割安、またい 0.1割安となり全般にやや値を下げた。

☆貝類	取扱数量 5,127 t (対前年比 99.9%)
	平均価格 865円 ( " 28円安)

取扱数量では、ほたて貝は 2.2割増、あおやぎは 0.9割増、あさり 0.7割増となったが、むきかきは 1.7割減、はまぐりが 1.3割減、むきほたて貝は 1.2割減など全般的に入荷は前年並となった。平均価格では、むきほたて貝は 1.4割高、はまぐりが 0.9割高、あか貝が 1.0割高と値を上げたが、その他は安値で全体では 0.3割安となった。

☆冷凍魚	取扱数量 15,094 t (対前年比 91.1%)
	平均価格 1,145円 ( " 93円高)

取扱数量では、まぐろ類は、主力のめばちが 0.1割増とわずかに増加したものの、ほんまぐろが減少したため、全体では 0.1割減となった。いか類はするめいかの輸入物が増加したものの、鮮魚むけが増加したことからするめいかの国内物が 2.1割減となった。さけ・ます類はしろさけが 1.8割減、べにさけが 2.5割増となり全体では昨年並となった。えび類は 1.6割減。さばは 3.1割減、ぎんだらは 2.7割減、たこは 2.8割減となった。平均価格では、まぐろ類は、入荷が減少したことから全般的にやや値を上げ全体で 0.4割高となった。いか類も入荷が減少したことから値を上げ、全体では 0.9割高。さけ・ます類はべにさけへの買気強く 4.5割高で全体でも 2.4割高となった。えび類は 0.5割高、さばは入荷減から 5.8割高、たこも 3.5割高となった。

☆加工品	取扱数量 23,390 t (対前年比 97.4%)
	平均価格 767円 ( " 9円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、すじこ 3.6割減など全般的に入荷が減少し、全体では 1.8割減となった。塩干品類は、開干さんまが 2.1割減となったものの、ししゃもの 3.2割増など、全体では 0.4割増となった。煮干製品類は、煮干いわしが 2.4割減、しらす干も 0.4割減で全体でも 0.7割減となった。練製品類は 0.7割減、湯煮品類は前年並となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩あきさけの 3.5割高をはじめ入荷の減少から全般的に値を上げ、全体では 0.8割高。塩干品類は、開干あじ 0.2割高、開干さば 2.5割高、

開干さんま 2.7割高などから全体でも 0.4割高となった。  
煮干製品類は、煮干いわしが 1.0割高であったものの、しらす干の 0.7割減など、全体では 0.9割安。湯煮品類 0.8割安。練製品は、かまぼこ 0.4割高などから全体でも 0.5割高となった。

## - 4月 -

☆鮮魚	取扱数量 14,350 t (対前年比 101.0%)
	平均価格 1,084円 ( " 15円安)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの輸入物が 3.6割減、めばちの輸入物が 0.2割減となったが、まぐろの国内物が 1.9割増など他は増加した。まあじは、九州海域で最漁期を迎え、1.2割増。さばは産地での水揚げも減少し、入荷も 0.2割減となった。まいわしは愛媛・銚子物が中心であるが 1.3割減。するめいかは、山陰近海が主体で中旬から再度水揚げが上がり、5.1割増となった。はまちは 2.5割減。かつおは漁も本格化し漁況も徐々に上向き、房州・九州物主体で 3.0割増となった。平均価格では、まぐろ類は、入荷が少なかったまぐろの輸入物が 1.1割高、めばちの輸入物が 2.1割高、きわだの輸入物が 1.3割高となったが、ほかは値を下げた。まあじは入荷増から 1.2割安。さばは 0.8割高、まいわしは品薄から 2.4割高。するめいかは入荷増のため 2.8割安。はまちは 1.9割高、かつおは 1.9割安となった。

☆活魚	取扱数量 1,262 t (対前年比 101.7%)
	平均価格 1,780円 ( " 63円安)

取扱数量では、またいが 0.9割増、かんぱちが 0.7割増、あなごが 0.1割増、はまちが 1.4割減で、全体では 0.2割とやや増加した。平均価格では、はまちが 2.9割高であったが、あなごが 0.9割安、かんぱちが 0.5割安、またいが 0.7割安などで全体では 0.3割安となった。

☆貝類	取扱数量 4,818 t (対前年比 98.9%)
	平均価格 872円 ( " 同額)

取扱数量では、ほたて貝 0.7割増。あさり 0.5割増、あか貝 0.2割増となったものの、はまぐりが 1.8割減、しじみが 1.3割減、あおやぎが 0.2割減、むきほたて貝が 2.1割減となり、全体では 0.1割減となった。平均価格では、むきほたて貝が 1.3割高、あか貝が 1.1割高となり、あおやぎが 1.9割安、ほたて貝が 0.8割安となり、全体では、前年並となった。

☆冷凍魚	取扱数量 15,944 t (対前年比 89.9%)
	平均価格 1,182円 ( " 111円高)

取扱数量では、まぐろ類は、きわだが 0.2割増となったものの、めばち 0.1割減、びんがが 4.9割減、印度まぐろ 0.4割減となり全体では 0.3割減となった。いか類は、もんこういかは 2.7割増となったが、全体では 1.4割減となった。さけ・ます類は低調で、しろさけが 0.9割増となったものの、べにさけが 1.2割減となり全体では 1.5割減となった。えび類も低調で 0.6割減。さばも 2.2割減。たこは 0.7割減。ぎんだらは 1.1割減となった。平均価格では、まぐろ類は入荷量の減少にともない、印度まぐろ 1.0割高、きわだ 0.4割高、めばち 0.1割高となり、全体では 0.4割高となった。いか類は、するめいかの国内物が 0.6割安となったものの、もんこういかは 1.2割高、むきいかは 0.5割高など全体では 0.4割高となった。さけ・ます類は入荷の減少にともない全体で 2.1割高となり、えび類は 0.6割高。さばは鮮魚の入荷減もあって 6.7割高、ぎんだらは 2.8割高、たこは 1.9割高となった。

☆加工品	取扱数量 22,713 t (対前年比 91.9%)
	平均価格 777円 ( " 17円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩べにさけが 0.7割増、すけが 0.6割増となったものの、いくらが 4.6割減、塩ぎんさけが 4.4割減など、全体では 1.7割減となった。塩干品類は、開干さばが 0.1割減、開干さんまが 2.3割減少したものの、ししゃもが 3.6割増、開干あじの 1.1割増などから全体では 0.3割増となった。煮干製品類は、しらす干の 2.3割減等から、全体では 2.5割の減少となった。練製品類は 1.2割減。素干品類は 0.1割減、湯煮品類は 0.9割の減となった。平均価格では、塩蔵品類は、いくら、塩かずのこなどが低調であったため、全体では、0.9割安となった。塩干製品類は、開干さんま 3.1割高、開干さば 2.5割高となり、開干あじが必要増から 0.3割高となり、全体では 0.4割高となった。煮干製品類は、しらす干の 0.1割高など入荷減から全体では、1.3割高となった。湯煮品類は 0.1割高。練製品類は 0.6割高となった。

## - 5月 -

☆鮮魚	取扱数量 16,198 t (対前年比 107.0%)
	平均価格 970円 ( " 32円安)

取扱数量では、まぐろ類では、めばちの国内物が 2.7割増、きわだの国内物が 5.7割増、まぐろの輸入物が 1.8割増増加したのに対して、まぐろの国内物が 2.1割減、きわだの輸入物が 2.2割減少した。まあじは産地での水揚げは順調であるものの、入荷は前年に比べ 0.2割減となった。さばは、紀州・九州物が主体で 1.4割増となった。まいわしは、房州・銚子物が主体で 0.1割増となった。するめいかは山陰沿岸でGW明けを境にさらに好調となり、入荷量も 4.6割増となった。はまちは時期的なものもあり 0.3割減。かつおは漁群の来遊もかなり早く、漁も最盛期に入り、産地での水揚げも急激に増加し、房州物を中心に 4.5割増。かれい類は 0.8割増。いさきが 6.6割増となった。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの国内物が 3.1割高、めばちの輸入物が 1.5割高となったものの、きわだの国内物が 2.8割安と値を下げた。入荷量が減少したまあじは 0.9割高。さばは 0.4割高。まいわしも 1.7割高となった。好調のするめいかは入荷量増から 1.3割安と値を下げた。はまちは品薄から 0.8割高。急増したかつおは 3.5割安となり、いさきも 1.6割安となった。

☆活魚	取扱数量 1,278 t (対前年比 102.9%)
	平均価格 1,729円 ( " 12円高)

取扱数量では、かんぱちが 2.5割増、またいが 1.3割増、あなごが 0.4割減、はまちが 0.7割減少したが、全体では 0.3割増となった。平均価格では、かんぱちが 1.9割安、またいが 0.9割安となり、あなごが 0.9割高・はまちが 1.0割高で全体としては 0.1割高となった。

☆貝類	取扱数量 4,702 t (対前年比 101.8%)
	平均価格 877円 ( " 26円高)

取扱数量では、しじみが 0.3割減、あか貝が 0.7割減、あおやぎが 0.2割減などが減少したものの、あさり・ほたて貝が 1.4割増となり全体では 0.2割増となった。平均価格では、ほたて貝が 1.5割安となったものの、あか貝 3.6割高、はまぐり 1.5割高など全体で 0.3割高となった。

☆冷凍魚	取扱数量 15,168 t (対前年比 90.5%)
	平均価格 1,147円 ( " 75円高)

取扱数量では、まぐろ類は、主力のめばちが 0.3割減、

印度まぐろが 0.9割減など、全般に減少した。いか類は、もんこういかは 1.8割増加したものの、するめいかの国内物が 1.9割減となり、全体でも 2.0割減となった。さけ・ます類は、しろさけが 0.4割増であったが、新物待ちのべにさけが 2.1割減で全体で 0.3割減となった。えび類が 1.9割減。かれい類も 1.3割減、たこも 3.6割減となった。平均価格では、まぐろ類は、入荷が減少したことから、めばちが 0.2割高、印度まぐろが 0.6割高など、全体でも 0.1割高となった。いか類は、もんこういかは 1.4割高だったものの、ほかは全般的に低調で全体では 0.5割安となった。さけ・ます類は 1.3割高、えび類は 1.5割高、かれい類は 0.2割高となった。

☆加工品	取扱数量 22,437 t (対前年比 95.1%)
	平均価格 764円 ( " 29円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩ぎんさけが 2.8割減、塩しろさけ 2.2割減など全般的に入荷量が減少し、全体では 1.4割減となった。塩干品類は、開干さんまが 1.7割減だったものの、丸干いわし 3.5割増、ししゃも 2.2割増、開干あじ 1.5割増と、全体では 1.2割増となった。煮干製品類は、煮干いわしは 0.3割増だったものの、前年急増したしらす干が例年並になったことから 5.4割減となり、全体では 3.9割減となった。練製品類が 0.9割減、湯煮品類が 0.2割減となった。平均価格では、塩蔵品類は塩あきさけ 4.3割高、塩ぎんさけ 2.8割高となったものの、いくら 2.5割安、すけこ 0.2割安などから全体では、0.3割安となった。塩干品類は開干さんま 2.9割高、開干あじ 0.2割高となったが、ししゃもが 0.6割安、丸干いわしが 0.8割安となり全体では前年並となった。煮干製品類は入荷減のしらす干の 3.1割高などから全体では 1.4割高となった、練製品類は 0.7割高。湯煮品類は煮たこが 1.1割高となり、全体でも 0.3割高となった。

- 6月 -

☆鮮魚	取扱数量 16,135 t (対前年比 108.0%)
	平均価格 862円 ( " 109円安)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの国内物の漁獲が減少したため 5.9割減、輸入物も 1.5割減となった。めじは好漁で 2.0倍増、めばちの国内物が 4.8倍増で、輸入物も 1.4割増となった。まあじはやや漁獲が落ち 0.1割増にとどまった。さばは 1.3割減、まいわしは好調で 4.1割増。するめいかは北陸物が主体で 2.2割増。はまちも 1.5割増、かつおは漁獲も上向きで房州物を主体に 3.9割増となった。

またいの養殖物は 0.6割減となった。平均価格では、まぐろ類は、入荷が減少したまぐろの国内物が 2.6割高、輸入物は 1.0割高、入荷の多いめじは 3.3割安、めばちの国内物は 1.5割安となり、めばちの輸入物は 2.0割高となった。まあじは買気も弱く 0.3割安。さばは入荷が減少したため 2.4割高、入荷好調のまいわしは 3.7割安と値を下げた。するめいかも 2.2割安、はまちも 0.7割安、かつおも 3.6割安となった。

☆活魚	取扱数量 1,198 t (対前年比 104.5%)
	平均価格 1,684円 ( " 162円安)

取扱数量では、かんばちが 3.9割増、ひらめが 1.4割増、またいが 1.4割増、あなごが 0.9割増で、はまち 2.7割の減少となった。平均価格では、あなごが前年並、かんばちが 2.5割安、ひらめが 1.5割安、またいが 1.2割安となり、全般的に安値となった。

☆貝類	取扱数量 4,183 t (対前年比 101.1%)
	平均価格 865円 ( " 9円安)

取扱数量では、さざえ 3.3割増、ほたて貝 2.1割増、あさり 1.6割増、あおやぎ 0.2割増などが増加し、全体では 0.1割増となった。平均価格では、入荷が若干増加したことにより、やや安値となった。

☆冷凍魚	取扱数量 12,539 t (対前年比 82.9%)
	平均価格 1,142円 ( " 58円高)

取扱数量では、まぐろ類は、きわだは 0.4割増となったが、めばちが 0.2割減、印度まぐろ 0.1割減となるなど全体でも 0.3割減となった。いか類は、鮮魚が好調なため、するめいか国内物の 2.5割減をはじめ、全般的に減少し全体では 2.0割減となった。さけ・ます類は、べにさけが 4.4割増加したものの、しろさけの 2.9割減などから全体では 2.0割減となった。かれい類は 2.4割減、えび類も 2.3割減、さばも 1.1割減、たこも 3.6割減、ぎんたらも 3.3割減となった。平均価格では、入荷が減少したまぐろ類は、印度まぐろが 0.5割高、めばちが 0.1割高など全体でも 0.2割高となった。いか類は、0.1割高、さけ・ます類は入荷減少にともない 0.7割高となった。かれい類は 0.3割高、えび類も 0.5割高、さばは鮮魚むけの減少の影響もあって 5.3割高、たこは鮮魚が増加したため、0.6割安と値を下げ、ぎんたらは 2.1割高となった。

☆加工品	取扱数量 21,436 t (対前年比 99.5%)
	平均価格 782円 ( " 32円高)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩ぎんさけが 3.2割増、いくら 1.6割増、塩しろさけ 0.4割増となったものの、塩べ

図1-1 総取扱数量の動き

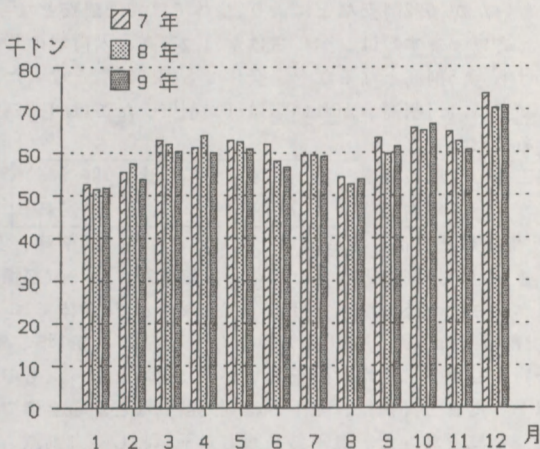


図1-2 総平均価格の動き

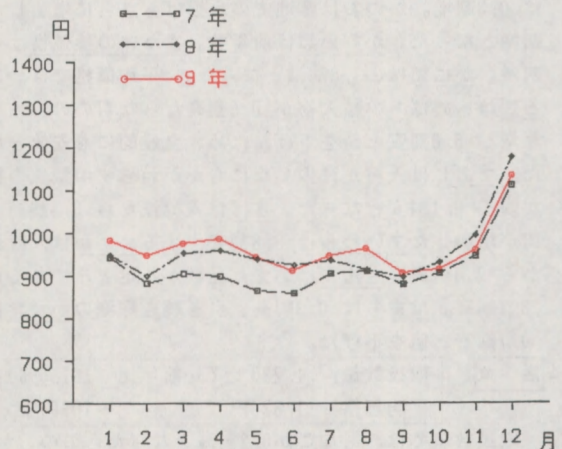


図2-1 鮮魚取扱数量の動き

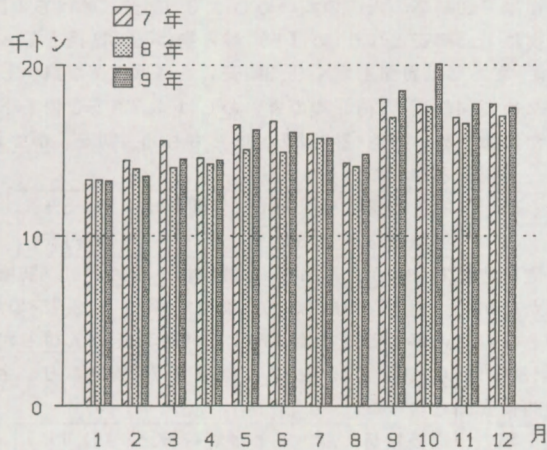
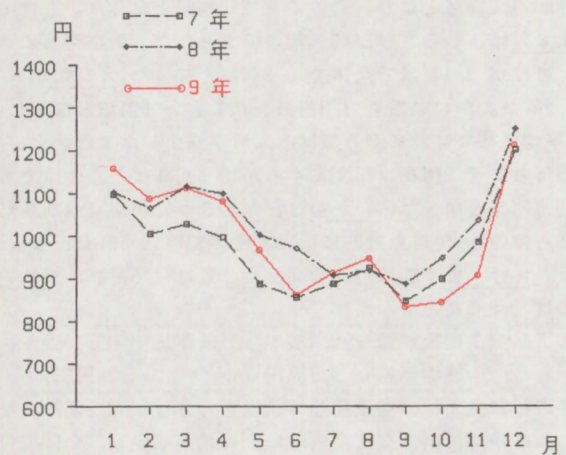


図2-2 鮮魚平均価格の動き



にさけ 1.9割減、すけこ 1.7割減などから全体でも 1.2割減少した。塩干品類は、ししゃもが 1.5割増、開干あじ 1.6割増などから全体でも 0.6割増となった。煮干製品類は、しらす干が 5.6割増増加したことから全体でも 3.3割増。練製品類は、ちくわが 1.4割減、かまぼこが 1.1割減、揚物が 1.6割減などの減少で全体でも 1.0割減。湯煮品類は 0.2割増となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩しろさげが 4.6割高などから全体では 0.8割高。塩干品類は開干さばが 2.2割高、開干さんまが 3.1割高などから、全体では 0.3割高となった。煮干製品類は、しらす干が 1.4割高などから、全体でも 1.5割高となった。練製品類は全般的に入荷減少から全体でも 1.0割高。湯煮品類は、前年並にとどまった。

ばち 3.0割増、またい 2.0割増などから全体では 0.2割増となった。平均価格では、かんばちが 2.2割安、またいが 1.1割安となり、入荷の減少したあなごも買気が弱く 0.3割安で全体的でも 0.6割安となった。

- 7月 -

☆鮮魚	取扱数量 15,707 t (対前年比 100.3%)
	平均価格 915円 ( " 5円高)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの国内物が 2.0割減、めじは 7.0倍増となり、前々年並の入荷であった。きわだは国内物が 0.7割増、輸入物が 1.3割減。めばちは国内物が 9.9割増、輸入物が 0.1割減となった。まあじは漁獲も少なくなり、0.3割減。さばは夏枯れ状態で産地の水揚げも減少し、1.6割減。まいわしは房州・銚子物が主体で 3.4割増となった。前年同期豊漁だったするめいかは北海道物主体で 2.0割減とやや減少した。さんまは漁況がまだ本格的でないため前年に比べて 1.0割減にとどまった。はまちは 0.3割増。かつおは産地での水揚げもさらに増加し 2.7割増となった。かれい類は前年並。またいの養殖物は 0.1割増。かに類は、1.6割減となった。平均価格では、まぐろ類は、めばちの輸入物が 0.6割高だったものの、めじが急増し 6.0割安と値を下げたため、全般的にも安値となった。まあじは入荷が減少したにもかかわらず中型魚の買気が弱く 0.1割安となった。さばは入荷減から 3.5割高。入荷が増加したまいわしは 3.8割安。するめいかは入荷減少から 2.4割高。さんまはいまだ品数が不足ぎみであるため 8.7割高。はまちは 0.3割高。引き続き好漁のかつおは 0.7割安と値を下げた。

☆活魚	取扱数量 1,230 t (対前年比 101.5%)
	平均価格 1,824円 ( " 109円安)

取扱数量では、あなごが 0.2割減となったものの、かん

☆貝類	取扱数量 4,019 t (対前年比 93.3%)
	平均価格 943円 ( " 53円高)

取扱数量では、さざえが 2.7割増、ほたて貝が 2.5割増など増加したものの、あさり 0.4割減、しじみが 0.6割減、はまぐりが 1.9割減、あか貝が 1.6割減などで、全体では 0.7割減となった。平均価格では、さざえが 2.2割安、ほたて貝が 0.9割安、あおやぎが 0.1割安などが値を下げた、それ以外は全般的にやや値を上げ、全体では 0.6割高となった。

☆冷凍魚	取扱数量 15,141 t (対前年比 100.6%)
	平均価格 1,128円 ( " 14円高)

取扱数量では、まぐろ類は、主力のめばちが 0.2割増となるなど全般的に増加し、全体で 0.2割増となった。いか類は、するめいか (SA) が 2.4倍増となったものの全般的に入荷が減少し、全体でも 1.9割減となった。さけ・ます類はべにさげが 3.2割減だったものの、しろさげが 2.6倍増となるなど全体でも 4.0割増となった。えび類は 0.9割減、かれい類は 3.3割減、たこも 0.6割減となった。平均価格では、まぐろ類は、印度まぐろの 0.1割高を除き、ほかは、めばちの 0.3割安など全体的にも 0.3割安となった。いか類はもんこういか 1.3割高、するめいか国内物が 0.3割高だったもののするめいか (SA) が 3.7割安、むきいか 0.2割安などにより、全体では 0.5割安となった。さけ・ます類は、べにさげが 1.2割高、入荷増のしろさげも 0.5割高となるなど、全体でも 0.6割高となった。えび類は 1.1割高、かれい類は 0.1割安、たこは 1.7割安であった。

☆加工品	取扱数量 21,846 t (対前年比 99.6%)
	平均価格 793円 ( " 7円高)

取扱数量では、塩蔵品類、塩しろさげが 3.0割減、塩あきさげ 1.9割減となったものの、塩ぎんさげ 9.7割増、塩べにさげ 3.8割増、すけこ 0.3割増などで、全体では 1.1割増となった。塩干品類は、ししゃもが 1.2割増、丸干いわしが 1.0割増、開干あじが 0.5割増となったものの、開干さんま 2.5割減、開干さば 0.6割減などから全体でも 0.3割減となった。煮干製品類も煮干いわし 2.3割減、し

らす干も 0.9割減で全体でも 1.4割減となった。練製品類は、ちくわが 2.1割減、かまぼこが 0.2割減、揚物が 1.8割減など減少し、全体でも 1.2割減となった。焼物製品類は、1.0割増となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩べにさけを除いた塩さけ類及びすじこが値を下げるなど全体でも 0.8割安となった。塩干品類は、ししゃもが 0.2割安、開干あじが 0.3割安などであったものの、開干さばが 2.9割高、開干さんまが 2.7割高などで、全体では 0.1割高となった。煮干製品類は、入荷減少から 1.8割高。練製品類は、揚物 1.4割高、かまぼこ 0.4割高などから全体でも 0.8割高となった。

- 8月 -

☆鮮魚	取扱数量 14,816 t (対前年比 105.4%)
	平均価格 950円 ( " 30円高)

取扱数量では、まぐろ類は、めじが前年の 4.7倍増、めばちの国内物が 2.3倍増、まぐろの国内物が 0.3割増、輸入物が 0.8割増となり、きわだの国内物が 3.5割減、めばちの輸入物が 0.9割減となったが、全体では増加した。まあじは台風等の影響もあり、操業が制約され、産地での水揚げが減少したものの、入荷は前年同期に比べ 0.2割増となった。さばは魚群の北上もあってややまとまった漁獲がみられ、3.5割増。まいわしは 2.1割増。今月にはいり本番を迎えたさんまは魚体も大型が増加し、順調な漁獲水揚げがあり、3.0割増となった。するめいかは好漁であるものの前年ほどでなく 3.0割減にとどまった。はまちは 1.2割減。かつおは漁況はやや低調となったが水揚げでは前年より多く、入荷は 6.1割増となった。平均価格では、まぐろ類は、入荷増のめじが 5.0割安と大幅に値を下げた。まぐろの国内物 2.0割高、めばちの輸入物 2.7割高など一般的に値を上げた。まあじは 0.2割高、さばは入荷増から 1.9割安、まいわしも 3.4割安、するめいかは品薄から 4.2割高。さんまは急増から 1.5割安と値を下げた。はまちは品不足から 2.2割高、かつおは入荷増から 1.4割安となった。

☆活魚	取扱数量 1,079 t (対前年比 108.3%)
	平均価格 1,849円 ( " 56円安)

取扱数量では、あなごが 0.8割減となったものの、かんばち 3.4割増、またいが 2.3割増となり、一般的に入荷が増加した。平均価格では、あなごが 1.4割高となったほかは、かんばち 1.7割安、またい 0.9割安など全体的に値を下げた。

☆貝類	取扱数量 3,630 t (対前年比 105.7%)
	平均価格 944円 ( " 54円高)

取扱数量では、しじみ 0.3割減、あおよぎ 0.7割減となったが、ほたて貝 3.3割増、あさり 0.6割増、あか貝 0.6割増などから全体的に入荷が増加した。平均価格では、あさり、ほたて貝が値を下げたものの、あか貝 2.5割高、むきほたて貝 1.5割高、しじみ 1.5割高などとなり全体でも 0.6割高となった。

☆冷凍魚	取扱数量 14,274 t (対前年比 103.9%)
	平均価格 1,167円 ( " 71円高)

取扱数量では、まぐろ類は、前年同期入荷が少なかったびんながら海外漁獲分がまとまって入荷し 35.5倍増、鮮魚の入荷減からきわだが 7.4割増、めばち 3.1割増、印度まぐろが 1.9割増となり、全体でも 3.1割増となった。いか類は、するめいか(SA)が 2.5倍増、むきいか 0.7割増となったが、もんこういか 1.8割減、するめいかの国内物 0.4割減などから全体でも 0.4割減となった。さけ・ます類は、しろさけ 4.0割減、べにさけ 3.6割減など全体でも 0.8割減となった。えび類は、あかえびが 7.9割増となり全体でも 0.3割増となった。ぎんだらは 1.1割増、さばは鮮魚の好漁の影響などから 5.5割減と半減した。たこは、1.4割増となった。平均価格では、まぐろ類は、入荷が増加したことから、びんながらは入荷が激増したことから 6.9割安、きわだ 0.5割安、めばち 0.4割安など全般的に値を下げ、全体で 0.7割安となった。いか類は、もんこういか 2.2割高、するめいかの国内物 1.2割高となり全体でも 0.8割高となった。さけ・ます類は、入荷減から一般的に高値となり、しろさけ 4.0割高、べにさけ 1.2割高で全体でも 0.9割高となった。えび類は、あかえび 1.6割安となったものの、鮮魚の減少により全体では 1.0割高とやや高値となった。ぎんだらは 1.9割高、さばは 5.5割高、たこは 1.9割安となった。

☆加工品	取扱数量 18,926 t (対前年比 97.2%)
	平均価格 783円 ( " 41円高)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩しろさけ 2.3割減、塩べにさけ 0.2割減となったが、塩ぎんさけ 5.4割増、いくら 2.4割増、すけこ 1.8割増となり全体では 0.2割増となった。塩干品類は、ししゃも 1.8割増、開干さばが 2.1割増などであったものの、全体では 0.1割減となった。煮干製品類は、しらす干 1.2割増したものの、煮干いわし 4.3割減などから全体では 1.5割減となった。練製品類は 1.4割減。湯煮品類は、煮たこ 1.5割増など全体で 1.2割増と

図3-1 貝類取扱数量の動き

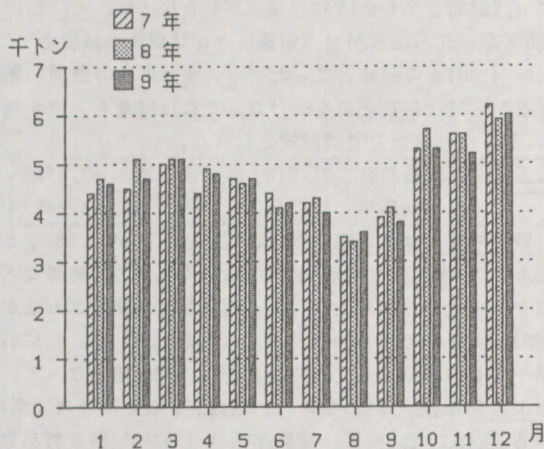


図3-2 貝類平均価格の動き

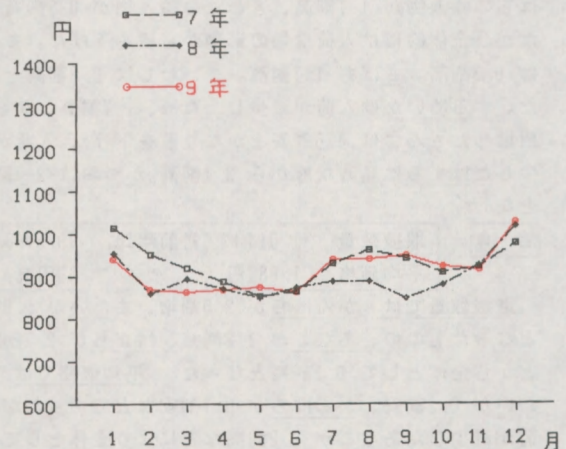


図4-1 冷凍魚取扱数量の動き

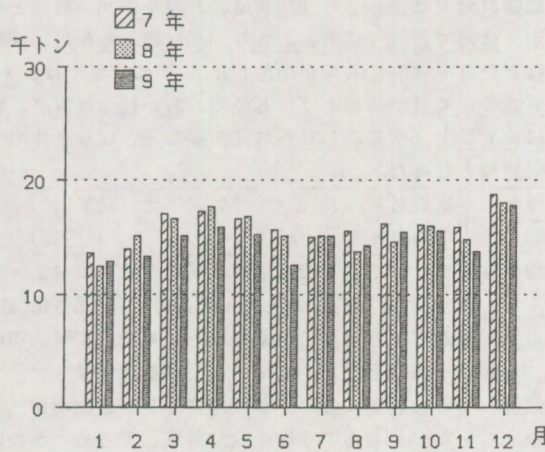
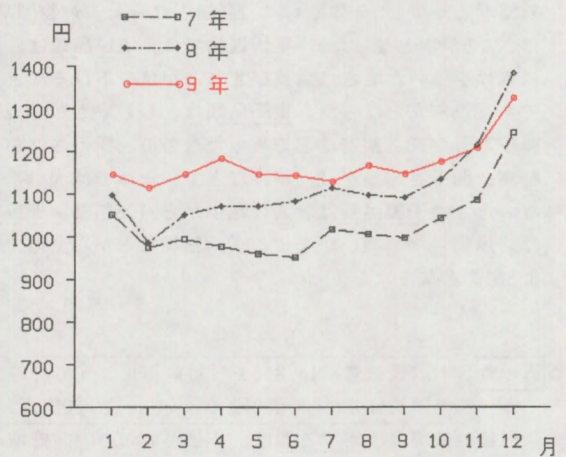


図4-2 冷凍魚平均価格の動き



なった。平均価格では、塩蔵品類は、入荷増減にかかわらず塩さけ全般が値を上げたことから全体でも0.5割高となった。塩干品類は、開干さんまが2.6割高、開干さばが1.5割高となったが、それ以外は、全般的に安値で全体では0.1割安となった。煮干製品は、しらす干2.4割高、煮干いわし1.4割高で全体でも3.2割高となった。湯煮品類は、煮たこの0.7割安で全体でも0.1割安となった。素干品類は0.4割高。練製品類は1.0割高となった。

0.4割高となった。

☆鮮魚

取扱数量	18,548 t (対前年比 109.8%)
平均価格	835円 ( " 54円安)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの国内物が3.1倍増、めじが3.2倍増と急増、めばちの国内物が9.8割増となり、きわだの国内物が8.1割減と激減、まぐろの輸入物が0.8割減となるなど、増減まちまちであったが、全体量としては増加した。まあじは九州物が主体で漁獲も更に上向いたため0.1割増。さばは漁獲が徐々に上向いているものの前年ほどでなく1.7割減となった。まいわしは銚子房州物主体で1.6割増。するめいかは中旬以降の台風の影響もあり、かなり漁獲量が落ち2.1割減となった。さんまは最盛期を迎え、好漁基調が続く7.1割増と急増した。はまちは4.3割減と大きく後退した。かつおは魚群の動きが変化し漁場がやや停滞したものの、前年より漁獲は多く三陸物を中心に6.1割増となった。平均価格では、まぐろ類は、急増したまぐろの国内物が3.2割安、めじも3.9割安となり、めばちの輸入物が1.1割高、きわだの輸入物が0.7割高となったが、全体的には入荷量増の影響から値を下げた。まあじは0.3割高。さばも1.1割高。まいわしは0.2割高となった。するめいかは入荷が減少したため、1.7割高となった。急増したさんまは4.6割安とかなり値を下げた。入荷が減少したはまちは品薄状態から3.1割高。かつおは2.7割安となった。

☆活魚

取扱数量	1,014 t (対前年比 99.5%)
平均価格	1,987円 ( " 69円高)

取扱数量では、かんぱちが2.5割増、またいが0.9割増となったものの、あなごが1.8割減、はまちが2.7割減などから全体として0.1割減となった。平均価格では、またいが0.2割安、かんぱちが0.7割安などであったが、入荷が減少したあなごが3.2割高などにより全体としては

☆貝類

取扱数量	3,789 t (対前年比 92.3%)
平均価格	951円 ( " 102円高)

取扱数量では、ほたて貝が2.6割増、さざえが1.6割増となったものの、あさり1.4割減、あおやぎ3.4割減などから全体で0.8割減となった。平均価格では、入荷量の減少から全般的にやや高値となった。

☆冷凍魚

取扱数量	15,393 t (対前年比 105.2%)
平均価格	1,147円 ( " 56円高)

取扱数量では、まぐろ類は、びんながは先月に続き入荷が多く25.0倍増、きわだは鮮魚の国内物の激減から入荷が増加し2.1倍増と急増、印度まぐろも2.3割増で、全体でも3.3割増となった。いか類は、むきいか2.1割増、するめいかの国内物が2.0割増となったものの、もんこういか3.2割減など全般的に減少し、全体では0.8割減となった。さけ・ます類は、しろさけが0.1割増加したが、べにさけ4.2割減などから全体では0.4割減となった。えび類は、あかえび1.9割増など全体でも0.3割増となった。かれい類は3.4割減と落ち込み、さばも3.7割減となった。さんまは鮮魚の急増の影響などから4.0割減となった。前年入荷量が少なかったこは9.3割増となり、例年並の入荷量にもどった。平均価格では、まぐろ類は、入荷が増加したため、びんながの6.4割安をはじめ全般的に値を下げ、全体で1.3割安となった。いか類は、もんこういかの入荷が減少したため2.8割高となり全体でも0.6割高となった。さけ・ます類は入荷減少のため、しろさけ・べにさけともに1.8割高となり全体でも0.8割高となった。えび類は1.5割高、ぎんたらが1.6割高、さばは鮮魚の減少もついで4.0割高の高値となった。さんまは鮮魚の豊漁の影響などから3.7割安と値を下げた。たこは鮮魚も入荷が増加し、荷もたれ感から1.7割安となった。

☆加工品

取扱数量	21,615 t (対前年比 97.8%)
平均価格	745円 ( " 1円高)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩あきさけが2.8割増となったものの、塩しろさけが5.3割減、いくらが2.1割減などから全体では0.4割減となった。塩干品類は開干さんまが3.1割減、丸干いわし0.7割減となったが、ししゃも1.8割増、開干あじ1.4割増などから全体では0.8割増となった。煮干製品類は、煮干いわしの3.7割減、しらす干の1.8割減から、全体で2.3割減、練製品類は1.5割減。湯煮製品類は、

煮たこの 0.9割増などから 0.8割増となった。平均価格では、塩蔵品類は、すじこ 2.6割高、塩さけ全般が値を上げたが、塩かずのこ 5.7割安、めんたいこ 0.8割安などから全体では 0.3割安となった。塩干品類は、開干さば 2.2割高、開干さんま 1.5割高となったものの、入荷増のししゃもが 1.1割安など全体では 0.6割安となった。煮干製品類は、しらす干の 1.8割高など全体でも 1.9割高となった。練製品類は、揚物 1.4割高などから全体でも 1.3割高となり、湯煮品類は、煮たこの 0.8割安などから全体でも 0.6割安となった。

- 10月 -

☆鮮魚	取扱数量 20,099 t (対前年比 114.3%)
	平均価格 845円 ( " 105円安)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの国内物が 2.9倍増となったが、輸入物は 1.0割減となり、昨年減少しためじは 2.9倍増となった。めばちの国内物は 4.2割増、主力の輸入物は前年並にとどまった。まあじは比較的好調な漁獲があり鮪子物主体で 0.5割増。さばは漁獲も上向きで九州物を主体に 2.8割増。まいわしは漁況がやや低調となったものの漁獲は前年より多く、三浦・伊東物が主体で 4.6割増。するめいかは青森物が主体で 0.9割減。さんまは時化や休漁の影響もあり、漁獲ベースは落ちたものの前年に比べて 9.9割増となった。はまちは依然低水準で 2.6割減となった。かつおは終漁期の様相を帯びてきたものの、この時期にはまとまった漁獲があり、2.5倍増となった。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの国内物が入荷増から 0.7割安、めじが 1.4割安となったほか全般的に値を下げた。まあじは 1.3割安。さばは 0.1割安。まいわしは 4.0割安。するめいかは入荷減により 1.3割高。入荷好調のさんまは 5.7割安。はまちは依然品薄で 1.8割高。かつおは 5.5割安となった。

☆活魚	取扱数量 1,177 t (対前年比 103.8%)
	平均価格 1,818円 ( " 18円高)

取扱数量では、あなごが 0.4割減、はまちが 2.1割減となったが、かんばちが 2.0割増、ひらめが 1.4割増、またいが 0.6割増などから全体では 0.4割増となった。平均価格では、ひらめが 1.1割安、またいが 0.3割安となったが、かんばちが 0.9割高、はまちが 0.8割高、あなごが 0.5割高となり全体では 0.1割高となった。

☆貝類	取扱数量 5,255 t (対前年比 92.8%)
	平均価格 925円 ( " 45円高)

取扱数量では、ほたて貝が 1.3割増、さざえが 2.1割増となったものの、あおやぎが 1.6割減、はまぐりが 1.4割減、しじみが 0.7割減、かきが 0.4割減となり、全体では、0.7割減となった。平均価格では、季節をむかえたかきが 0.2割高となるなど、入荷量の減少から全般的にやや値を上げ、全体では 0.5割高となった。

☆冷凍魚	取扱数量 15,525 t (対前年比 97.2%)
	平均価格 1,175円 ( " 41円高)

取扱数量では、まぐろ類は、びんながが 18.1倍増、きわだが 9.7割増、印度まぐろが 1.8割増となり、全体でも 2.5割増となった。いか類は、むきいかは 2.1割増となったものの、するめいかの国内物が 4.6割減、もんこういかは 1.6割減などから全体でも 1.4割減となった。さけ・ます類はべにさけが 3.7割減、しろさけが 3.0割減で全体でも 1.3割減となった。えび類は、あかえびが 1.2割増となったものの、全体では 1.1割減となった。さばは 2.6割減。たこは 3.2割増となった。平均価格では、まぐろ類は、入荷増により、びんながが 6.4割安をはじめ全般的に値を下げ、全体では、1.6割安となった。いか類は、むきいか、するめいか全般が値を下げたものの、入荷減少にともない全体では 1.9割高となった。さけ・ます類は、べにさけの 0.7割高など、入荷減少にともない全体では 0.1割高となった。えび類は 2.1割高。さばは 1.7割高。たこは 0.4割安となった。

☆加工品	取扱数量 23,645 t (対前年比 98.4%)
	平均価格 760円 ( " 5円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、めんたいこが 0.5割増となったものの、塩さけ全般、すじこ、いくら、すけこなどが低調で、全体でも 1.1割減となった。塩干品類は開干さんま 2.9割減、丸干いわし 0.7割減となったが、ししゃも 1.3割増、開干さば・開干あじ 0.5割増などから全体でも 1.2割増となった。煮干製品類は、煮干いわしが 0.8割減となったが、しらす干が 2.7割増となり全体では 0.8割増となった。練製品類は、全般的に低調で、1.1割減となった。湯煮製品類は、煮たこが 0.3割増などから、全体では 0.3割増となった。素干品類は、0.8割増となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩かずのこ 4.9割安、めんたいこ 0.2割安となったが、塩さけ全般、すじこ、いくら等が若干値を上げ、全体では、前年並となった。塩干品類は、開干さばが 1.2割高となったが、全般的には安値で、1.0割安となった。煮干製品類は、煮干いわしが 1.7割高、入荷増のしらす干も 1.2割高となり全体では 1.8割高となった。練製品

図5-1 加工品取扱数量の動き

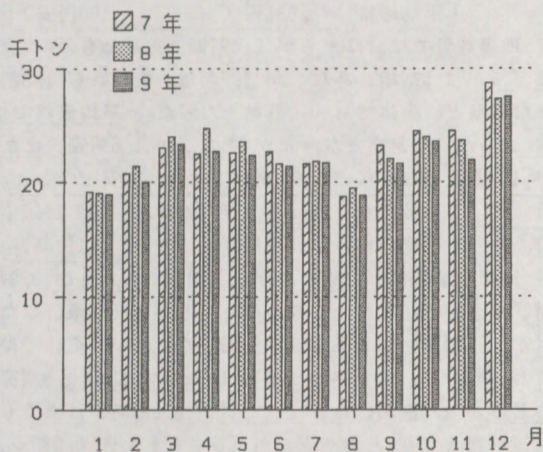
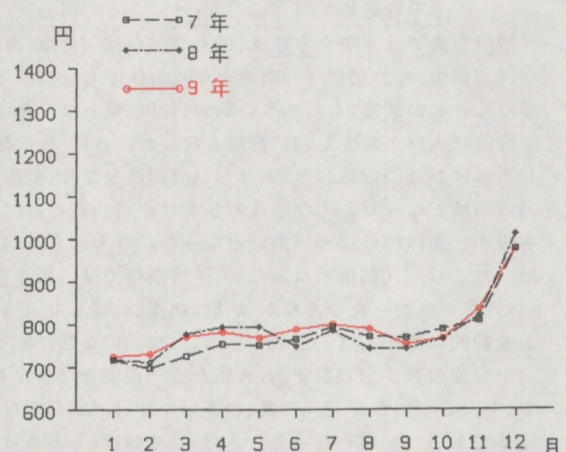


図5-2 加工品平均価格の動き



類は、ちくわが前年並であったが、全体では入荷減から 0.4 割高となった。湯煮品類は 0.8 割安となった。素干品類は、1.8 割高となった。

- 11月 -

☆鮮魚

取扱数量	17,708 t (対前年比 107.0%)
平均価格	908円 ( " 129円安)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの国内物が 0.5 割増、輸入物が 0.4 割増となった。めじは 2.5 倍増となった。めばちは国内物が 4.9 割増となったものの、輸入物は 1.9 割減となった。まあじは漁況が季節的なものもあって落ちてきたが、入荷は 0.7 割増となった。さばは依然好漁で九州物を主体に 0.6 割増となった。まいわしは伊豆周辺での漁獲が多く、三浦・伊東物を主体に 2.6 割増となった。するめいかは 0.1 割減となった。終漁期をむかえたさんまは、やや漁獲も落ちたものの、それでも前年に比べて 2.7 倍増となった。増加の時期を迎えるはまちは前月に比べて、やや増加したが、それでも前年に比べて 3.4 割減となった。かつおは今年的好漁を反映して最後まで好調で、三陸物主体に前年に比べて 3.8 倍増となった。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの国内物が 0.2 割高となったほかは、入荷の増加しためじが 4.0 割安となったのをはじめ全体的に値を下げた。まあじは 1.0 割安。さばは 0.7 割高。まいわしは 1.7 割安。するめいかは 0.7 割安。さんまは 6.4 割安。かつおは 4.3 割安となった。入荷が低調なはまちは 1.7 割高となった。

☆活魚

取扱数量	1,127 t (対前年比 96.0%)
平均価格	1,700円 ( " 3円安)

取扱数量では、かんぱちが 0.5 割増となったものの、はまちが 2.8 割減、ひらめが 0.7 割減、またいが 0.5 割減となり、全体では、0.4 割減となった。平均価格では、はまちが 1.1 割高、かんぱちが 0.9 割高となったものの、ひらめが 1.1 割安、あなごが 0.7 割安、またいが 0.1 割安などから全体では前年並となった。

☆貝類

取扱数量	5,227 t (対前年比 93.1%)
平均価格	917円 ( " 3円安)

取扱数量では、さざえが 1.1 割増、あか貝が 0.3 割増、むきかきが 0.1 割増となったが、はまぐり 1.8 割減、しじみ 1.6 割減、季節をむかえたかきが 1.1 割減とふるわず、全体として 0.7 割減となった。平均価格では、しじみが 1.0 割高、はまぐりが 0.7 割高、かきは前年並となったが、さざえが 1.7 割安、あおやぎが 1.5 割安、あか貝が 1.3 割安となり、全体では 0.1 割安となった。

☆冷凍魚

取扱数量	13,721 t (前年比 92.4%)
平均価格	1,206円 ( " 9円安)

取扱数量では、まぐろ類は、びんながが 5.4 倍増、めばちが 0.7 割増、きわだかが 0.3 割増となり全体でも 0.2 割増となった。いか類は、もんこういかが 4.9 割減となったほか、全般的に入荷が減少し、3.1 割減となった。さけ・ます類は、しろさけが 5.3 割減、べにさけが 1.4 割減となり、全体でも 1.8 割減となった。えび類はあかえびが 3.9 割増となったものの、全体的には 0.7 割減となった。ぎんだらは 4.4 割減。たこは 2.0 割増となった。平均価格では、まぐろ類は、入荷が多かったびんながは 6.0 割安、めばちも 1.5 割安と全般的に値を下げ、1.5 割安となった。いか類はするめいかの国内物が 1.4 割安、SA物が 0.5 割安となったものの、もんこういかが 2.6 割高、むきいかかが 0.5 割高となり、全体でも 1.2 割高となった。さけ・ます類は、しろさけ 2.4

割高、べにさけが 0.7 割高となり、全体では 0.5 割高となった。えび類は、あかえびが 1.5 割安となったものの、ほかは全般的に値を上げ、全体では 1.7 割高となった。ぎんだらは 0.3 割高。たこは 0.4 割安となった。

☆加工品

取扱数量	22,025 t (対前年比 93.1%)
平均価格	830円 ( " 10円高)

取扱数量では、塩蔵品類は、いくらが 1.2 割増となったものの、塩さけをはじめ、全般的に入荷が低調で、1.4 割減となった。塩干品類は、ししゃもが 1.7 割増、開干さばが 0.5 割増、丸干いわしが 0.1 割増となったが、開干さんまが 2.1 割減、開干あじが 0.4 割減となり、全体でも 0.2 割減となった。煮干製品類は、しらす干が 3.1 割増、煮干いわしが 0.5 割増となり、全体では 1.7 割増となった。素干品類は干するめが 0.6 割減となり、全体でも 0.4 割減となった。練製品類は揚物の 1.8 割減をはじめ全般的に入荷が低調で、全体で 1.5 割減となった。湯煮品類は 0.6 割減となった。平均価格では、塩蔵品類は、すじこが 3.0 割高、いくらが 1.7 割高となり、全体でも 0.6 割高となった。塩干品類は、開干さばが 0.4 割高、丸干いわしが 0.2 割高となったものの、ほかは値を下げ、全体では 0.4 割安となった。煮干製品は 0.1 割安となった。練製品類は、入荷減少から 0.4 割高となった。湯煮品類は 0.8 割安となった。

- 12月 -

☆鮮魚

取扱数量	17,511 t (対前年比 103.3%)
平均価格	1,213円 ( " 37円安)

取扱数量では、まぐろ類は、めばちの国内物が 4.0 割増、まぐろの輸入物が 2.9 割増、きわだの輸入物も 2.9 割増となったものの、めじが 6.8 割減、きわだの国内物が 5.6 割減、めばちの輸入物も 0.1 割減となった。まあじは漁獲は落ちてきたが、入荷は前年に比べて 0.7 割増加となった。さばは、漁況は上向き傾向で、九州物主体で 2.0 割増となった。まいわしは漁獲は落ちてきたものの、三浦伊東物主体で 4.3 割増となった。はまちは最大の需要期を迎えたが、産地在池量が少なく 1.7 割減となった。たら類は 0.3 割減、かに類は 0.1 割減となった。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの国内物が 4.6 割高、めじが 3.7 割高、めばちの輸入物が 0.4 割高、きわだの輸入物が 0.3 割高となったが、きわだの国内物 3.6 割安、めばちの国内物が 1.8 割安、まぐろの輸入物が 1.4 割安、きわだ国内物が 3.6 割安となった。まあじは 0.2 割高、さばは 1.4 割安、まいわしは、2.1 割安、するめいかは 0.1 割高、はまちは 1.0 割高、たら類は 1.0 割高となった。

☆活魚

取扱数量	1,529 t (対前年比 106.9%)
平均価格	1,696円 ( " 100円安)

取扱数量では、はまちが 2.4 割減であったものの、かんぱちが 1.5 割増、あなごが 1.2 割増、またいも 1.3 割増となるなど、全体でも 0.7 割増となった。平均価格では、はまちが 1.1 割高となったが、あなごが 1.6 割安、またいが 1.2 割安となるなどから、全体では 0.6 割安となった。

☆貝類

取扱数量	6,040 t (対前年比 102.1%)
平均価格	1,028円 ( " 11円高)

取扱数量では、むきかきが 2.0 割増、あさりも 0.9 割増、かきが 0.7 割増となり、はまぐりが 0.5 割減、ほたて貝が 0.7 割減、しじみが 0.4 割減となったが、全体では 0.2 割増となった。平均価格では、ほたて貝が 1.9 割高、しじみが 1.0 割高、むきほたて貝が 0.9 割高、はまぐりが 0.2 割高となり、あおやぎ 1.1 割安、むきかき 0.9 割安、さ

ざえが 0.6割安、あさりが 0.4割安となったが、全体では 0.1割高となった。

☆冷凍魚	取扱数量	17,752 t (対前年比 98.7%)
	平均価格	1,324円 ( " 60円安)

取扱数量では、まぐろ類は、きわだが 3.2割減、印度まぐろが 1.7割減となったものの、びんながが 6.1倍増、めばちが 1.8割増となり全体でも 0.6割増となった。いか類は、するめいか(SA)が 1.3割増、むきかが 0.8割増となったが、もんこういかが 4.3割減、するめいか国内が 1.3割減となり、全般的に低調で 2.7割減となった。さけ・ます類は、べにさけが 2.3割増、しろさけが 1.2割増となり、全体でも 0.1割増となった。えび類は 1.1割減。かに類は 0.5割増。たこは 2.4割減となった。平均価格では、まぐろ類は全般に安値となり、全体で 1.4割安となった。いか類は、するめいか国内が 1.9割安であったが、もんこういかが 2.2割高となり、全体でも 1.3割高となった。さけ・ます類は、入荷が増加したことから全般的に安値で 0.6割安となった。えび類は 2.1割高。かに類は 0.4割安。たこが 0.7割安となった。

☆加工品	取扱数量	27,488 t (対前年比 100.6%)
	平均価格	969円 ( " 42円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩ぎんさけが 5.7割増、塩べにさけが 1.0割増、塩かずのこが 0.5割増となったものの、いくらが 3.6割減、塩しろさけが 3.0割減となり、全体でも 0.5割減となった。塩干品類は、開干あじの 0.3割増、開干さばが 0.3割増、ししゃもが 0.2割増となり全体でも 0.4割増となった。煮干製品類は、しらす干が 0.4割減となったが、煮干いわしが 1.4割増などで全体でも 0.4割増となった。練製品類は、かまぼこが 0.3割増、ちくわ 0.3割増などから、全体でも 0.1割増となった。湯煮品類は 0.3割増となり、素干品類は 0.9割減となった。平均価格では、塩蔵品類は、いくら 2.9割高、塩あきさけ 1.4割高、塩べにさけ 0.9割高となったものの、塩かずのこ 1.9割安、塩ぎんさけ 1.4割安などから全体では 0.4割安となった。塩干品類は、開さばが 0.5割高、ししゃもが 0.5割高となったが、他は低調で全体では 0.4割安となった。煮干製品類は、煮干いわしが 0.1割高となったが、しらす干が 0.1割安となり、全体では 0.3割安となった。練製品類は、かまぼこが 0.2割高となり、全体では 0.2割高となった。湯煮品類は 0.8割安。素干品類は 0.7割安となった。

## 2. 主要品目の取扱高

### (1) まぐろ類

<生鮮まぐろ類>は、取扱数量が 1.5割増、取扱金額も 0.9割増となり、平均価格では 75円安となった。品目別に見ると、取扱数量では、きわだの国内物が 1.6割減、まぐろの国内物が 0.8割減、まぐろの輸入物が 0.1割減、きわだの国内物が前年並の入荷となり、昨年に引き続き記録的な豊漁となっためじは 2.1倍増と激増し、めばちの国内物は 7.1割増となった。平均価格では、まぐろの国内物が 369円高、めばちの輸入物が 76円高となったものの、めばちの国内物が 744円安、めじが 372円安、まぐろの輸入物が 193円安、きわだの国内物が 61円安、きわだの輸入物が 16円安となった。

<冷まぐろ類>は、全般的に入荷増から単価安となり、取扱数量では、0.6割増で、平均価格は 80円安となった。品目別にみると、取扱数量では、印度まぐろが 0.1割増

となったものの、びんながが 4.6割増、きわだが 1.0割増、主力のめばちが 0.8割増となった。平均価格では、きわだは 4円高となり、びんながは 817円安、めばちが 53円安、印度まぐろが 14円安となった。

### (2) かつお

取扱数量は、年の前半から好調で、南下の始まるころから活況を呈し、近年にない入荷量で年間で 5.4割の増加となった。平均価格は、取扱数量の増加から 192円安の 523円となった。

### (3) 養殖はまち

前年に引き続き、さらに取扱数量が激減し、価格も高騰した。取扱数量は 2.2割減少し、平均価格は、6月以降 1,200円台以上を付けるなど、214円高の 1,135円となった。

### (4) まあじ

取扱数量は、月によって減少があったものの、全般的に前年よりやや増加傾向で、0.4割増となった。平均価格は 535円の 14円安となった。

### (5) まいわし

取扱数量は、前半やや前年を下回ったが 5月以降入荷が増加し、年間では、1.9割増となり、平均価格は 393円で、52円安となった。

### (6) するめいか

<生鮮するめいか>は、6月までは入荷が前年を上回ったものの、その後は逆に前年を下回ったため、取扱数量は 0.2割減少し、平均価格は 413円の 20円高となった。

<冷するめいか>も減少傾向で、取扱数量は 1.4割減少し、平均価格は 18円安の 307円となった。

### (7) さば

<生鮮さば>は、月により前年を下回ることもあったが、10月以降まとまった入荷があり、取扱数量は、0.7割増となった。平均価格は 565円で、20円高となった。

<冷さば>は低調で取扱数量は 2.1割減少し、平均価格は 135円高の 453円となった。

### (8) さんま

夏場から始まった漁は、好調な滑り出しとなり、近年にない豊漁となった。このため、取扱数量は 4.9割増となり、平均価格は 196円安の 418円となった。

### (9) さけ・ます類

<生鮮さけ・ます類>は、取扱数量では、輸入物が 0.3割増加したものの、しろさけが 1.3割減、ぎんさけが 1.1割減と前年を下回り、全体でも 0.4割減となった。平均価格では、しろさけが 53円高、ぎんさけが 56円高、輸入物も 50円高となり、全体では 75円高となった。

<冷さけ・ます類>は、取扱数量では、その他冷さけが 6.8割増、冷ますが 1.2割増となったものの、それ以外の冷さけ・ます類はすべて減少したため、全体では 0.3割減となった。平均価格では、冷しろさけが 52円安となったほかはすべて高値となり、全体では 64円高となった。

### (10) えび類

<生鮮えび類>は、取扱数量では、まきえびが 0.3割増であったものの、いせえび(輸入)が 1.8割減、あかえびが 0.7割減、むきえびが 0.9割減になるなど、全体でも 0.6割減となった。平均価格では、まきえびは 528円安となったものの、いせえび(輸入)が 366円高、あかえびは 129円高、むきえびが 182円高となるなど、全体では 104円高となった。

<冷えび類>は、取扱数量では冷えび(インド)が 5.3割増となったが、冷えび(インドネシア)が 1.7割減、む

きえびが 1.1割減、あかえびの 0.9割減など、全体では 0.9割減となった。平均価格では、いせえび（輸入）が 237円安となったものの、冷えび（インド物）が 358円高、冷えび（インドネシア）が 298円高、冷えび（フィリピン）が 220円高、むきえびが 113円高など、全体でも 183円高となった。

(11) **加工品**

<塩蔵品類>

塩さけは、塩あきさけが 取扱数量 1.1割減で平均価格は 69円高、塩しろさけも 取扱数量 2.2割減で平均価格は 137円高となった。魚卵では、すじこが 取扱数量 2.9割減で平均価格は 436円高、いくらが 取扱数量 1.4割減で平均価格が 157円安となった。

<塩干品類>

開干あじは 取扱数量 0.7割増加して平均価格は 4円安となった。

<煮干製品類>

しらす干は 取扱数量 0.8割の減少で平均価格は 140円高となった。

<焼物製品類>

蒲焼うなぎは 取扱数量 1.1割増で平均価格は 252円安となった。

<素干品類>

干するめは、取扱数量では、国内物が減少、S A物が増加し、平均価格は国内物が 45円安、S A物も 209円安となった。

<練製品類>

練製品は、かまぼこが 取扱数量 0.2割減、なるとが 0.6割減となり、全体でも 1.0割減で平均価格では 36円高となった。

<湯煮品類>

煮タコは 取扱数量 0.2割減で平均価格が 43円高となった。

### 3. 市場別取扱高

(1) **築地市場**

総取扱数量は、620,958 t で前年比 99%と減少（7,609 t 減）し、総取扱金額は、605,913百万円で前年比 99%と減少（4,465百万円減）した。類別に見ると、鮮魚の取扱数量は、157,641 t（6,367 t 増）で前年比 104%となり、取扱金額は、161,975百万円（758百万円増）で前年比 101%となった。活魚の取扱数量は、12,532 t（272 t 増）で前年比 102%と増加し、取扱金額は、22,677百万円（228百万円増）で前年比 101%と増加した。冷凍魚の取扱数量は、156,987 t（7,161 t 減）で前年比 96%となり、取扱金額は 185,216百万円（648百万円減）で前年並となった。加工品の取扱数量は、235,686 t（5,300 t 減）で前年比 98%となり、取扱金額は、183,920百万円（4,366百万円減）で前年比 98%となった。貝類の取扱数量は、48,543 t（1,352 t 減）で前年比 97%となり、取扱金額は、45,212百万円（320百万円減）で前年比 99%となった。淡水魚の取扱数量は、2,909 t（483 t 減）で前年比 86%となり、取扱金額は、4,248百万円（246百万円減）で前年比 95%と減少した。海藻類の取扱数量は、6,660 t（48 t 増）で前年比 101%となり、取扱金額は、2,666百万円（130百万円増）で前年比 105%となった。

(2) **足立市場**

総取扱数量は、53,887 t で前年比 94%と減少（3,385

t 減）し、総取扱金額は、47,616百万円で、前年比 96%と減少（2,131百万円減）した。類別に見ると、鮮魚の取扱数量は、15,036 t（519 t 増）で前年比 104%となり、取扱金額は、12,271百万円（42百万円増）で前年並となった。活魚の取扱数量は、584 t（86 t 減）で前年比 87%と大きく減少し、取扱金額は、965百万円（85百万円減）で前年比 92%となった。冷凍魚の取扱数量は、11,061 t（1,407 t 減）で前年比 89%となり、取扱金額は、11,971百万円（332百万円減）で前年比 97%となった。加工品の取扱数量は、20,851 t（1,959 t 減）で前年比 91%となり、取扱金額は、17,545百万円（1,510百万円減）で前年比 92%となった。貝類の取扱数量は、5,349 t（256 t 減）で前年比 95%となり、取扱金額は、4,191百万円（105百万円減）で前年比 98%となった。淡水魚の取扱数量は、283 t（152 t 減）で前年比 65%となり、取扱金額は、363百万円（123百万円減）で前年比 75%となった。海藻類の取扱数量は 722 t（43 t 減）で前年比 94%となり、取扱金額は、309百万円（19百万円減）で前年比 94%となった。

(3) **大田市場**

総取扱数量は、40,405 t で前年比 102%と増加（619 t 増）し、総取扱金額は、37,146百万円で前年比 101%と増加（329百万円増）した。類別に見ると、鮮魚の取扱数量は、19,544 t（2,197 t 増）で前年比 113%となり、取扱金額は 15,287百万円（1,074百万円増）で前年比 108%となった。活魚の取扱数量は、1,233 t（170 t 増）で前年比 116%となり、取扱金額は、1,923百万円（231百万円増）で前年比 114%と大幅に増加した。冷凍魚の取扱数量は、8,722 t（672 t 減）で前年比 93%となり、取扱金額は、9,931百万円（96百万円減）で前年比 99%となった。加工品の取扱数量は、8,057 t（1,049 t 減）で前年比 89%となり、取扱金額は、7,405百万円（846百万円減）で前年比 90%となった。貝類の取扱数量は、2,185 t（53 t 増）で前年比 103%となり、取扱金額は、2,080百万円（60百万円増）で前年比 103%となった。淡水魚の取扱数量は、277 t（81 t 減）で前年比 77%となり、取扱金額は、338百万円（67百万円減）で前年比 83%となった。海藻類の取扱数量は、386 t（2 t 減）で前年並となり、取扱金額は、182百万円（26百万円減）で前年比 87%となった。

### 4. 卸売業者別取扱高

(1) **築地市場**

① **大都魚類(株)**

総取扱数量は、124,180 t で、前年比 99%と減少し、総取扱金額は、123,249百万円で、前年比 101%と増加した。類別には、取扱数量では、鮮魚は 7%増加（2,038 t 増）、貝類は 7%減少（958 t 減）、冷凍魚は 2%減少（143 t 減）、加工品は 3%減少（817 t 減）した。取扱金額では、鮮魚は 2%増加（719百万円増）、活魚は 前年並（15百万円増）、冷凍魚は 4%増加（1,771百万円増）、加工品は 7%減少（1,592百万円減）となった。

② **中央魚類(株)**

総取扱数量は、126,268 t で、前年比 96%と減少した。総取扱金額も、143,753百万円で、前年比 98%と減少したものの、3年連続で数量・金額ともトップとなった。類別には、取扱数量では、鮮魚が 1%減少（539 t 減）、貝類は 13%減少（1,465 t 減）、冷凍魚は 8%減少（4,003

t減)となった。加工品は3%増加(703t増)となった。取扱金額では、鮮魚は4%減少(1,598百万円減)した。貝類は5%減少(567百万円減)、冷凍魚は3%減少(1,730百万円減)、加工品は1%減少(917百万円減)となった。

③ 東都水産(株)

総取扱数量は、116,476tで、前年比99%と減少し、総取扱金額は、128,953百万円で、前年並であった。類別には、取扱数量では、鮮魚は7%増加(2,277t増)、活魚は8%増加(163t増)、冷凍魚が5%減少(1,924t減)、加工品は7%減少(2,618t減)した。取扱金額では、鮮魚は2%増加(741t増)、活魚も2%増加(741t増)、冷凍魚は1%増加(230百万円増)、加工品が3%減少(917百万円減)となった。

④ 築地魚市場(株)

総取扱数量は、120,619tで、前年比103%と増加し、総取扱金額は、103,467百万円で、前年比99%と減少した。類別には、取扱数量では、鮮魚が6%増加(1,832t増)、貝類は5%減少(405t減)、冷凍魚は2%増加(406t増)、加工品は4%増加(1,846t増)した。取扱金額では、鮮魚が2%増加(649百万円増)した。貝類は3%減少(262百万円減)、冷凍魚が3%減少(834百万円減)、加工品も1%減少(384百万円減)となった。

⑤ 第一水産(株)

総取扱数量は、51,281tで、前年比101%と増加し、総取扱金額は、47,980百万円で、前年比99%と減少した。類別には、取扱数量では、鮮魚は5%増加(759t増)、貝類が9%増加(713t増)、冷凍魚は11%減少(969t減)、加工品も1%減少(103t減)となった。取扱金額では、鮮魚は2%増加(247百万円増)し、貝類は2%増加(177百万円増)、冷凍魚は1%減少(86百万円減)、加工品は1%減少(786百万円減)となった。

⑥ 丸千代田水産(株)

総取扱数量は、68,539tで、前年比94%と減少し、総取扱金額は、46,203百万円で、前年並となった。加工品の取扱としては、数量・金額ともに本年もトップとなった。類別には、取扱数量では、海藻類が7%増加(114t増)し、加工品は6%減少(4,352t減)となった。取扱金額では、海藻類は13%増加(78百万円増)となり、加工品は前年並(100百万円増)となった。

⑦ 総合食品(株)

総取扱数量は、13,594tで、前年並となり、総取扱金額は、12,308百万円で、前年比97%と減少した。類別には、取扱数量では、海藻類は10%増加(3t増)し、加工品も前年並となった。取扱金額では、海藻類は24%増加(10百万円増)し、加工品は3%減少(393百万円減)となった。

(2) 足立市場

① 東京北魚(株)

総取扱数量は、20,537tで、前年比93%と減少し、総取扱金額は、17,519百万円で、前年比97%と減少した。類別には、取扱数量では、鮮魚は5%減少(221t減)、貝類は9%減少(197t減)、冷凍魚は7%減少(357t減)し、加工品も7%減少(677t減)となった。取扱金額では、鮮魚は9%減少(330百万円減)、活魚は2%減少(8百万円減)、冷凍魚が14%増加(2,436百万円増)、加工品は8%減少(617百万円減)となった。

② 大都魚類(株)千住支社

総取扱数量は、17,719tで、前年比93%と減少した。総取扱金額は、15,457百万円で、前年比95%と減少した。類別には、取扱数量では、鮮魚は8%増加(433t増)、活魚は16%減少(28t減)、冷凍魚は8%減少(322t減)、加工品も15%減少(1,113t減)となった。取扱金額では、鮮魚は4%増加(191百万円増)し、活魚は10%減少(28百万円減)、冷凍魚が6%減少(240百万円減)、加工品も13%減少(769百万円減)した。

③ 中央魚類(株)千住支社

総取扱数量は、15,630tで、前年比96%と減少し、総取扱金額は、14,640百万円で、前年比95%と減少した。類別には、取扱数量では、鮮魚は6%増加(306t増)し、貝類は1%増加(17t増)となり、活魚は18%減少(49t減)、冷凍魚も19%減少(728t減)、加工品は3%減少(170t減)した。取扱金額では、鮮魚は4%増加(181百万円増)、活魚は11%減少(49百万円減)、冷凍魚も16%減少(656百万円減)、加工品は3%減少(125百万円減)となった。

(3) 大田市場

① 東京大田魚市場(株)

総取扱数量は、21,820tで、前年比104%と増加し、総取扱金額は、21,308百万円で、前年比103%と増加した。類別には、取扱数量では、鮮魚は15%増加(1,348t増)、貝類は5%増加(57t増)、冷凍魚は4%減少(233t減)、加工品も9%減少(430t減)となった。取扱金額では、鮮魚は11%増加(884百万円増)、貝類も2%増加(26百万円増)、冷凍魚は前年並(1百万円増)、加工品は9%減少(425百万円減)となった。

② 大都魚類(株)大田支社

総取扱数量は、18,585tで、前年比99%と減少し、総取扱金額も、15,838百万円で、前年比98%と減少した。類別には、取扱数量では、鮮魚は10%増加(849t増)、活魚も7%増加(66t増)、冷凍魚は12%減少(440t減)、加工品も14%減少(619t減)となった。取扱金額では、鮮魚は3%増加(275百万円増)、活魚が4%増加(56百万円増)、冷凍魚は2%減少(97百万円減)、加工品は12%減少(421百万円減)となった。

(4) 買付比率

全体の買付比率は、取扱数量では、47.8%と前年を1.5ポイント下回り、取扱金額では、48.2%と前年を0.1ポイント上回った。市場別に見ると、築地市場の買付比率は、取扱数量では、47.9%と前年を1.4ポイント下回り、取扱金額では、47.3%と前年を0.2ポイント上回った。足立市場の買付比率は、取扱数量では、43.1%と、前年を1.4ポイント下回り、取扱金額では、51.3%と前年を0.7ポイント上回った。大田市場の買付比率は、取扱数量では、51.6%と前年を5.4ポイント下回り、取扱金額では、58.3%と前年を2.5%下回った。

卸売業者別に見ると次の表のとおり。

## 卸売業者別買付比率

	取扱数量			取扱金額		
	平成9年	平成8年	差	平成9年	平成8年	差
総数	47.8	49.3	-1.5	48.2	48.1	0.1
(築地市場)	47.9	49.3	-1.4	47.3	47.1	0.2
大都魚類	46.6	47.4	-0.8	44.9	44.4	0.5
中央魚類	47.5	48.5	-1.0	47.1	46.9	0.2
東都水産	44.5	47.3	-2.8	44.9	45.1	-0.2
築地魚市場	38.4	38.3	0.1	36.5	36.8	-0.3
第一水産	35.8	37.6	-1.8	41.8	41.6	0.2
丸千代田水産	82.3	83.3	-1.0	86.9	85.6	1.3
総合食品	49.5	46.4	3.1	63.6	63.1	0.5
(足立市場)	43.1	44.5	-1.4	51.3	50.6	0.7
東京北魚	43.0	43.5	-0.5	56.9	55.0	1.9
大都魚類・千住	44.4	44.9	-0.5	48.4	47.8	0.6
中央魚類・千住	42.0	45.3	-3.3	47.6	48.6	-1.0
(大田市場)	51.6	57.0	-5.4	58.3	60.8	-2.5
東京大田魚市場	55.6	61.4	-5.8	63.2	65.9	-2.7
大都魚類・大田	46.8	52.1	-5.3	51.7	54.3	-2.6

## 5. 出荷地別取扱高

## (1) 総取扱高

都道府県別の取扱数量のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位千葉・4位宮城・5位北海道・6位青森・7位三重・8位神奈川・9位愛知・10位福島となった。前年の4位と5位が入れ替わり、三重・神奈川が1位づつ上位に上がり、愛知が9位に下がった。取扱金額のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位北海道・4位千葉・5位宮城・6位神奈川・7位三重・8位青森・9位愛知・10位福島となった。7位・9位の愛知・三重が入れ替わり、大阪が10位から下がり、代わりに福島が10位となった。

## (2) 鮮魚取扱高

取扱数量で見ると、東京が1位、以下2位千葉・3位宮城・4位北海道・5位青森・6位愛媛まで前年と変わらず、7位三重・8位福岡・9位長崎・10位静岡となった。静岡が10位に下がり、代わりに三重・福岡が順位を上げた。

## (3) 冷凍魚取扱高

取扱数量で見ると、東京が前年に続き1位となった。2位静岡・3位神奈川・4位宮城・5位青森・6位千葉・7位北海道・8位大阪・9位岩手・10位愛知となった。岩手が9位に上がり、愛知が1位下がり、三重が10位から下がった。

## (4) 加工品取扱高

取扱数量で見ると、東京が前年に続き第1位となった。2位千葉・3位静岡・4位北海道・5位宮城・6位福島・7位愛知・8位茨城・9位神奈川・10位兵庫となった。3位・4位の静岡・北海道が入れ替わった。

表 1 年次別取扱高

(単位：トン・千円・%)

	平成 9 年	平成 8 年	7 年	6 年	5 年	4 年	3 年
総数量 前年比	715,250 98.6	725,624 98.3	738,236 96.8	762,829 97.5	782,782 96.9	807,920 97.0	832,532 98.3
総金額 前年比	690,674,765 99.1	696,941,817 102.5	680,172,945 95.4	712,946,992 95.3	748,202,651 92.9	804,962,014 97.4	826,250,552 97.9

表 2-1 年次別魚種別取扱数量

(単位：トン・%)

年次 魚種	平成 9 年		平成 8 年		7 年		6 年		5 年		前年比					9年 / 2年
	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	9年	8年	7年	6年	5年	
総数	715,250	100.0	725,624	100.0	738,236	100.0	762,829	100.0	782,782	100.0	98.6	98.3	96.8	97.5	97.0	84
鮮魚	192,221	26.9	183,138	25.2	191,772	26.0	184,057	24.1	186,230	23.8	105.0	95.5	104.2	98.8	105.9	111
活魚	14,349	2.0	13,995	1.9	14,650	2.0	13,902	1.8	13,622	1.7	102.5	95.5	105.4	102.1	104.0	114
貝類	56,077	7.8	57,631	7.9	56,149	7.6	56,352	7.4	58,873	7.5	97.3	102.6	99.6	95.7	101.1	92
冷凍魚	176,770	24.7	186,010	25.6	191,581	26.0	214,511	28.1	226,675	29.0	95.0	97.1	89.3	94.6	91.8	62
淡水魚	3,469	0.5	4,185	0.6	4,305	0.6	3,812	0.5	3,748	0.5	82.9	97.2	112.9	101.7	97.6	82
海藻類	7,768	1.1	7,761	1.1	7,599	1.0	7,733	1.0	7,651	1.0	100.1	102.1	98.3	101.1	97.8	100
加工品	264,595	37.0	272,904	37.6	272,181	36.9	282,461	37.0	285,983	36.5	97.0	100.3	96.4	98.8	95.2	87

表 2-2 年次別魚種別取扱金額

(単位：百万円・%)

年次 魚種	平成 9 年		平成 8 年		7 年		6 年		5 年		前年比					9年 / 2年
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	9年	8年	7年	6年	5年	
総数	690,675	100.0	696,942	100.0	680,173	100.0	712,947	100.0	748,203	100.0	99.1	102.5	95.4	95.3	97.4	82
鮮魚	189,533	27.4	187,659	26.9	185,410	27.3	186,566	26.2	192,123	25.7	101.0	101.2	99.4	97.1	101.4	99
活魚	25,564	3.7	25,190	3.6	24,161	3.6	24,626	3.5	25,677	3.4	101.5	104.3	98.1	95.9	97.3	96
貝類	51,482	7.5	51,848	7.4	52,141	7.7	54,362	7.6	56,178	7.5	99.3	99.4	95.9	96.8	96.0	82
冷凍魚	207,118	30.0	208,194	29.9	196,972	29.0	219,061	30.7	229,065	30.6	99.5	105.7	89.9	95.6	93.6	68
淡水魚	4,950	0.7	5,386	0.8	5,455	0.8	5,343	0.7	5,125	0.7	91.9	98.7	102.1	104.3	93.9	89
海藻類	3,157	0.5	3,073	0.4	2,986	0.4	3,025	0.4	3,223	0.4	102.7	102.9	98.7	93.9	99.4	100
加工品	208,871	30.2	215,593	30.9	213,047	31.3	219,964	30.9	236,872	31.7	96.9	101.2	96.9	92.9	99.0	85

表 2-3 年次別魚種別平均価格

(単位：キロ当たり円・%)

年次 魚種	平成 8 年		平成 8 年		7 年		6 年		5 年		対平成 2 年指数				
	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	9年	8年	7年	6年	5年
総数	966	100.6	960	104.2	921	98.5	935	97.8	956	100.4	97	96	92	94	96
鮮魚	986	96.2	1,025	106.0	967	95.4	1,014	98.3	1,032	95.7	89	92	87	91	93
活魚	1,782	99.0	1,800	109.2	1,649	93.1	1,771	94.0	1,885	93.6	84	85	78	84	89
貝類	918	102.0	900	96.9	929	96.3	965	101.3	953	95.0	90	88	91	94	93
冷凍魚	1,172	104.7	1,119	108.9	1,028	100.7	1,021	101.0	1,011	102.1	109	104	96	95	94
淡水魚	1,427	110.9	1,287	101.6	1,267	90.4	1,402	102.5	1,368	96.2	108	98	96	106	104
海藻類	406	102.5	396	100.8	393	100.5	391	92.9	421	101.6	100	98	97	97	104
加工品	789	99.9	790	100.9	783	100.5	779	94.1	828	104.0	97	97	96	95	101

表 3 - 1 市場別・年次別取扱数量

(単位：トン・円)

市場	年次 区分	平成 9 年		平成 8 年		7 年		6 年		5 年	
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
総数	数量 前年比	715,250 98.6	100.0	725,624 98.3	100.0	738,236 96.8	100.0	762,829 97.5	100.0	782,782 96.9	100.0
築地	数量 前年比	620,958 98.8	86.8	628,567 98.2	86.6	640,292 96.1	86.7	666,076 97.5	87.3	683,173 97.0	87.3
足立	数量 前年比	53,887 94.1	7.5	57,272 98.0	7.9	58,456 100.8	7.9	57,980 93.7	7.6	61,890 93.7	7.9
大田	数量 前年比	40,405 101.6	5.6	39,786 100.8	5.5	39,488 101.8	5.3	38,773 102.8	5.1	37,719 100.0	4.8

表 3 - 2 市場別・年次別取扱金額

(単位：百万円・%)

市場	年次 区分	平成 9 年		平成 8 年		7 年		6 年		5 年	
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
総数	金額 前年比	690,675 99.1	100.0	696,942 102.5	100.0	680,173 95.4	100.0	712,947 95.3	100.0	748,203 92.9	100.0
築地	金額 前年比	605,913 99.3	87.7	610,378 102.4	87.6	596,193 95.2	87.7	626,411 95.4	87.9	656,884 92.8	87.8
足立	金額 前年比	47,616 95.7	6.9	49,747 101.9	7.1	48,835 96.6	7.2	50,571 90.8	7.1	55,717 90.6	7.4
大田	金額 前年比	37,146 100.9	5.4	36,817 104.8	5.3	35,145 97.7	5.2	35,965 101.0	5.0	35,602 99.4	4.8